

随行職員報告

～2023 与謝野町・アベリスツイス高校生派遣事業報告～

企画財政課 主任 廣谷 章彦

総務課 主任 井戸本 あゆみ

1. はじめに

第2次世界大戦時に日本軍の捕虜となり大江山ニッケル鉱山で強制労働に従事させられた故フランク・エバンス（Frank Evans）氏と与謝野町（当時の加悦町）とで昭和59年（1984）年に始まった英国・ウェールズのアベリスツイスとの交流は今回で第14回目の高校生派遣をむかえ、今回の派遣を含めて合計83名の高校生を派遣しています。

2. 今回の訪問の特徴

① 山添藤真町長の同行～アベリスツイスとの友好協定締結～

前回に引き続き、団長として11月6日から9日まで、山添町長が高校生派遣団に同行され、与謝野町にとっては初めてとなる、海外の自治体との友好協定の締結を行いました。

② 研修生の増員

例年、研修生の上限を6名とし訪問団を構成していましたが、コロナ禍にで中断していた交流事業を4年ぶり（前回の訪問からは5年ぶり）に再開することとなり、現地友好協会のマイル会長と協議したところ、研修事業への申込者8名全員を受け入れていただけることとなり、町長、随員（職員）2名を加えた総勢11名での訪問となりました。

③ 移動経路について

国際線の航空料金の高騰化により、アベリスツイスまでの移動経費が少しでも安価となるよう、近年の訪問で採用していたバーミンガム空港ではなく、ロンドン・ヒースロー空港へ到着する航路に変更しました。さらに、ウェールズ政府日本代表事務所の案内でウェールズの首都であるカーディフを訪問することとなったため、移動時間が長い旅程となりました。

3. 事前研修会（全5回）

研修生は、アベリスツイスに渡航するまでに合計5回の事前研修会に参加し、この交流の経緯、目的、第二次世界大戦中に故フランク・エバンス氏がされた体験について学び、また、大江山運動公園に建立された慰霊碑への参拝や、大江山ニッケル鉱山跡、日中悠久平和友好碑の見学を行いました。特に、慰霊碑の参拝では、生前のエバンスさんに出会い、会話を交わされた、友好協会の奥野さんから、エバンスさんの想いを聞かせていただき、この交流の目的を再確認する機会となりました。

事前研修は、アベリスツイス訪問が単なる海外旅行や語学学習ではなく、交流の歴史を学び、エバンスさんの想いを知ったうえで、現地でどのような交流ができるかといった個々の目標を研修生自身で考えてほしいという想いで開催しています。

4. 現地研修 (11月6日～11月17日)

◇11月6日(月)

◆与謝野町役場での出発式～関西国際空港から出国

10:15 出発式 町長あいさつ、高校生から意気込み発表

保護者、与謝野・アベリスツイス友好協会会員、本庁舎勤務職員参集

10:30 出発 関西国際空港へ向けて出発

友好協会の山崎副会長と奥野理事長、企画財政課の成毛補佐が同行



出発式の様子

17:15 関西国際空港出発、アブダビ国際空港を經由しロンドン・ヒースロー空港へ

◇11月7日(火)

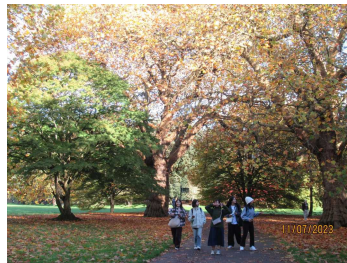
6:45 ロンドン・ヒースロー空港到着、貸切バスでパディントン駅に移動し、カーディフへ

◆カーディフ(ウェールズ政府へ表敬訪問する予定が市内散策に変更)

カーディフ中央駅でウェールズ政府のMioko Morrisさん(日本人女性)と合流し、カーディフ城周辺の公園を散策しました。その後、マイルさんとマイクさんのお迎えでアベリスツイスへ。



カーディフ城にて



カーディフ城周辺の公園にて



カフェで休憩中

◆ホストファミリーと対面

アベリスツイス大学構内でホストファミリーと顔合わせをしました。高校生たちは少し緊張していたり、長距離移動の疲れが出ているようでした。この後、軽食を取って、アベリスツイス滞在中に宿泊する短期滞在者用の寮に向かいました。



ホストファミリーと対面



宿泊施設(別日に撮影)

◇11月8日（水）

◆National Library

1907年に設立されたウェールズ最大の図書館です。イギリスで発刊された書籍は全てここに集められ（毎週4,000冊）、収蔵スペースを確保するために増築を繰り返しており、新聞や絵画なども含めると700万点の収蔵数となります。旧加悦町とアベリスツイスとの交流が始まった頃の手紙や故フランク・エバンスさんに関する資料を展示していただいております。また、エバンスさんが慰霊碑の除幕式のために旧加悦町を訪れた際のドキュメンタリー映像を視聴させていただきました。



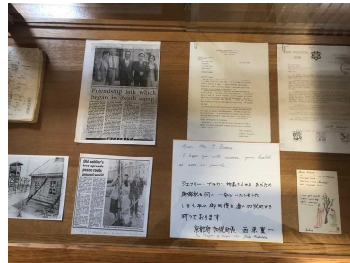
National Library の説明



記念撮影



旧加悦町時代の交流文書など



旧加悦町時代の交流文書など



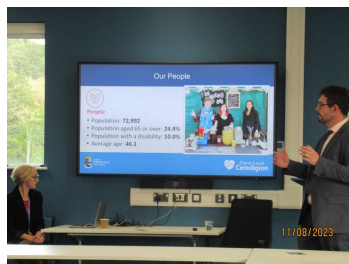
エバンス氏来町時のテレビ映像を視聴

◆AberInnovate

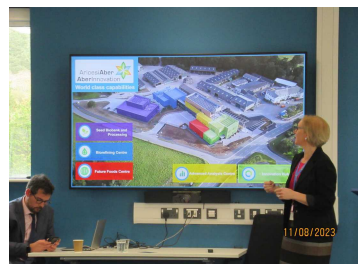
クレディギオン郡の議長や議員の方々とともに施設訪問をしました。アベリスツイスが属するクレディギオン郡や本施設の説明を受け、施設内部を見学させていただきました。学問（研究）と産業（事業）との間のギャップを解消し、ビジネスの成長を加速させるため、意欲ある企業が飼料、食品、農業分野で革新的な製品とサービスを提供できるようサポートする施設です。



説明を聞く様子



クレディギオン郡の説明



施設の説明



施設見学



郡議長・議員、施設の方々

◆ Arts Centre

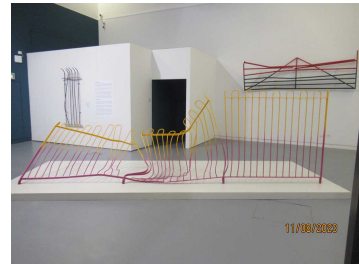
アベリスツイス大学エリアにあるコンサート、演劇、ダンス、映画会などが開催され、カフェやショップなどもある複合施設です。展示物を見たり買い物をしたり、自由に時間を過ごしました。



センターにて



展示物



◇11月9日（木）

◆アベリスツイス大学訪問（高校生）

大学職員のヴァッキーさん（2010ホストチューデント）の案内で大学の授業等に参加。犯罪心理学の模擬授業では、「この未成年はなぜ犯罪を犯したのか？」「どのような処罰がその未成年にとって一番良いのか？」といった内容について2人1組のペアに分かれて考えました。その後、海外留学生の語学クラスに参加し、自己紹介や留学している理由を質問したり、ゲームで交流しました。プログラミングの授業では、ロボットのプログラミングの難しさに悪戦苦闘していました。



犯罪心理学の模擬授業



留学生語学クラスに参加



プログラミングワークショップ

◆アベリスツイス大学副学長との意見交換（山添町長）

2024年11月までの期限となっているMoUを更新することを確認しました。また、来年度にサマースクール、ショートトリップの再開や北近畿を拠点とする大学との連携を模索することとなりました。

◆友好協定の締結（山添町長）

これまで続けてきた与謝野町とアベリスツイスとの交流を今後も継続していくため、両町で友好協定を締結しました。



アベリスツイス
ケリー・ファーガソン町長と



アベリスツイス
行政(議会)関係者の方々と



友好協定書

◆レセプション

山添町長からスピーチ、高校生からスピーチとダンス発表を行いました。

また、ウェールズの伝統的なダンス（Twmpath）を楽しみました。



町長あいさつ



高校生あいさつ



高校生ダンス



Twmpath

山添町長のあいさつ

フランク・エバンスさんは悲惨な経験をされました。それを許すことをできた。それは人間の尊さだと思っています。

フランク・エバンスさんのように勇気のある人材を育てることができたアベリスツイス、ウェールズの皆様方に心から敬意を表します。

その心は今、与謝野町の住民の皆様方、そしてアベリスツイスの住民の皆様方に受け継がれています。

本日、アベリスツイスのケリーさんと議会の皆様方と連携協定を結ぶことができました。とても光栄なことだと思っています。今後この協定に基づき私たちも皆様方との関係性をより深くできるように努力したいと思っています。

そしてこの協定を締結するに至るまでアベリスツイスのマイルさんをはじめとする友好協会の皆様方、ホストファミリーの皆様方には大変な御尽力をいただいたことに心から感謝を申し上げます。

今回、私は3度目のアベリスツイスの訪問となりました。この3度目の訪問に際し、たくさんのアベリスツイスの友人の方々ができた実感しています。

これからも皆様方とともに一人の人間としても、そして与謝野町長としてもお付き合いをしていきたいと思っています。

私たちは流れに身を任せようとは思いません。私たちの手で歴史を作っていきたいと思っています。

ありがとうございました。

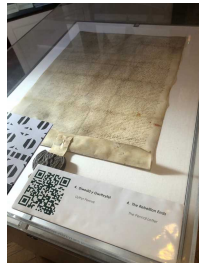
◇11月10日（金）

◆マツハンスレス(Machynlleth)

マイクさん、カロルさん（2017 与謝野町訪問）、ポーマン・ヒロシさんとともにアベリスツイスから車で 30 分の距離にあるマツハンスレスを訪れました。スレート鉱山跡ツアーでは産業革命時にウェールズの繁栄を支えてきた鉱夫達の作業場を見学し、採掘作業の過酷さを目の当たりにしました。



MOMA



Senedd-dy Owain Glyndwr



RED shoes



Corris Mine Explorers

◇11月11日（土）

高校生たちは、終日ホストファミリーと一緒に過ごし、廣谷と井戸本は、マイルさん、マイクさんとウェールズ北西部に位置するスノードニア国立公園まで出かけました。

◆スノードニア（廣谷、井戸本）

マイクさんの運転で、アベリスツイスから北へ 1 時間半ほどの距離にある HARLECH CASTLE（ハーレフ城）を目指してのドライブとなりました。途中、DYFFRYN BURIAL CHAMBER（新石

器時代の埋葬室)に立ち寄りたり、足を伸ばして Borth-y-Gest Pillbox (石で作られたトーチカ)などを訪れ、ゆっくりとした一日を過ごしました。また、ウェールズは遺産をとっても大切にしている国ということに改めて感じた一日となりました。



BURIAL CHAMBER



HARLECH CASTLE



Borth-y-Gest Pillbox

◇11月12日(日)

◆Remembrance Sunday

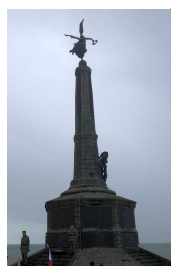
第1次世界大戦の休戦記念日である11月11日に最も近い日曜日は、第1次世界大戦以降の戦争で亡くなった軍人らを追悼する日となっています。この日は、ポピーの造花を身に着け、教会での礼拝の後、記念碑までパレードし、追悼式典に参加させていただきました。式典には大変多くの方が参加されており、戦死者の名前が一人一人読み上げられ、記念碑にポピーの花輪が手向けられました。



パレード前 (ポピーの花輪)



パレード



記念式典

◆Frank Evans' Grave

追悼式典の後、アベリスツイス近郊のタリボン (Talybont) に移動し、故フランク・エバンス氏のお墓参りをしました。毎回の訪問で必ずお墓参りの時間を組み込んでいただき、この交流が始まったきっかけとなったエバンスさんの想いを再認識する機会としています。現地友好協会の元会長で、長年、交流事業にご尽力いただいているアウエルさんが待っていてくれて、エバンスさんのことを説明していただきました。

ことあと、高校生たちはホストファミリーと合流し、廣谷と井戸本はケレディグさんと行動しました。



アウエルさんから説明



記念写真



エバンスさんのお墓

◆Red Kite Feeding (廣谷、井戸本)

ケレディグさんとアベリスツイスから車で東に 20 分ほどの距離にある Bwch Nant yr Arian Forest Visitor Center を訪れ、Red Kite (赤トビ) の餌付け体験をさせていただきました。赤トビはその美しさから過去に乱獲され、イングランドやスコットランドでは絶滅し、19 世紀末にはウェールズでも一部の地域に少数のつがいが生き残るだけの状態になったため、保護活動が盛んになり、生息数は回復してきているようです。ここには 100 羽以上の赤トビが餌を求めてやってくるそうです。



◇11月13日(月)

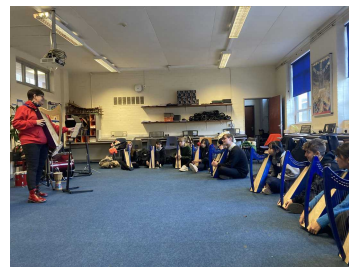
◆ペングルイス校

ペングルイス校は、アベリスツイス大学エリアの丘の上にある英語系の中等学校で約 1,300 人の生徒が在籍しています。現地友好協会会長のマイルさんが校長を務めておられ、マイクさんもこの学校に勤務されています。ここでは、工作や音楽の授業に参加させていただきました。

この学校には平成 18 年の訪問時に植樹した樁があります。



工作の授業



音楽の授業



ウェルシュハーブ

◆ペンウエディグ校

ペンウエディグ校は、アベリスツイス大学エリアの丘の麓にあるウェールズ語系の中等学校で約 600 人の生徒が在籍しています。現在の校長・リアン・モーガンさんは、平成 4 年に始まった交流事業で最初に旧加悦町を訪れた高校生のうちの一人です。アウエルさんもこの学校で 20 年間に渡り校長を務めておられました。ここでは、ホストスチューデントと一緒に昼食を取ったり、数学や語学の授業を見学させていただきました。



ホストスチューデントと

◆プラスリーグ校とガムラーイグ校

ペンウェディグ校の近くにある3歳から11歳までの児童が通う、保育所と小学校の機能を併せ持つ二つのプライマリースクールを訪問しました。



プラスリーグ校



ガムラーイグ校

◇11月14日（火）

◆Welsh Wool Museum

マイクさんとソフィーさん（2019年与謝野訪問）とともに、アベリスツイスから車で南に1時間ほどの距離にある国立ウール博物館へ。羊毛産業は畜産産業とともにウェールズの基幹産業として発展してきました。まず、ウールを使った作品制作のワークショップを行い、その後施設見学となりました。この博物館では羊の毛を毛糸にしていく過程や、織機作業の実演が行われており、シャトルが織機の中を行ったり来たりする、与謝野町でもなじみのある風景を見ることができました。



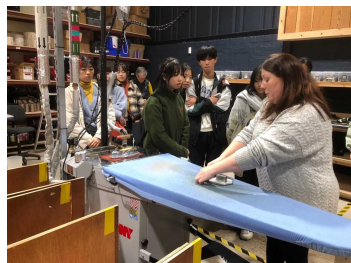
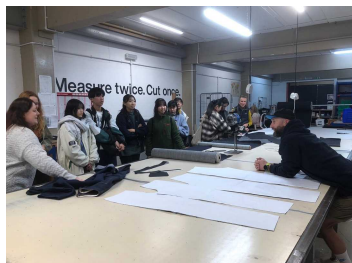
ワークショップ



施設見学

◆Hiut Denim Company

国立ウール博物館の見学の後、車で西に 30 分ほど走りカーディガンにあるデニムカンパニーへ。カーディガンにあったジーンズ工場が 2002 年に閉鎖したことから、ジーンズ生産のスキルとノウハウをカーディガンに戻すために 2011 年に設立された会社で、量より品質を重視するスタイルでジーンズのみを製造しています。ここでは、製造工程を見学させていただきました。



施設見学

◇11月15日(水)

◆アベリスツイス出発

7:28 出発 ロンドン・ユーストン駅に向けて出発
マイル会長、マイクさん、アUELさん、クレ
ディグさん、ホストファミリーの方々に見送りに
来ていただきました。



◆ロンドン散策

ユーストン駅に到着後、一旦ホテルにチェックインしてからウェストミンスター地区へ少し観光に出かけました。ビッグ・ベンやウェストミンスター寺院などを見てから買い物などをして再びホテルへ。



ビッグ・ベンとウェストミンスター宮殿



ロンドン・アイ



ウェストミンスター寺院

◇11月16日（木）

◆ロンドン出発

5:00 ホテルを出発し、貸切バスでロンドン・ヒースロー空港へ

9:00 ロンドン・ヒースロー空港出発、アブダビ国際空港を經由し関西国際空港へ

◇11月17日（金）

◆関西国際空港に帰国～与謝野町へ帰着

11:20 関西国際空港到着 友好協会の山崎副会長と奥野理事長、企画財政課の成毛補佐が出迎え

17:30 役場本庁舎到着 井上副町長、山口企画財政課長、保護者らが出迎え
井上副町長挨拶のあと、解散



井上副町長挨拶

5. 帰国後（事後研修会及び研修報告会）

現地研修の振り返りを行うため、12月5日（火）に事後研修を開催し、12月26日（火）に与謝野・アベリスツイス友好協会の和田会長をはじめとした会員のみなさま、研修生のご家族のみなさま、研修生が在籍する高等学校の先生方にお越しいただき研修報告会を開催しました。

報告会では、研修生から現地研修でや体験したこと、学んだこと、考えたこと、また、ホストファミリーとの交流の様子を発表していただきました。

6. 最後に（随員職員から）

企画財政課 主任 廣谷 章彦

私は、前回に引き続き2回目の訪問となりましたが、前回同様、アベリスツイス滞在中は現地関係者の皆様の心温まるおもてなしを受けました。2019年に与謝野町を訪問いただいたマイルさん（現地友好協会会長）やマイクさん、前回の訪問でもお世話になったケレディグさんや元会長のアウエルさんらと再び交流を行うことができ、他にも多くの方々との交流の場も設けていただきました。

また、今回の訪問では、これまで与謝野町とアベリスツイスとの間で築き上げてきた友好交流の歴史を再確認し、この交流を今後も変わることなく継続していくために、行政間での友好協定の締結を行いました。締結式にはアベリスツイスのケリー・ファーガソン町長の他にも多くの評議員の皆様が出席くださり、その後のレセプションは現地協力者やホストファミリーも多数参加してのウェールズの伝統的なダンスパーティーを開催していただき、山添町長や高校生たちとともにとても楽しい時間を過ごしました。

2019年にアベリスツイスの高校生を受け入れた後、コロナ禍により交流事業は中断していましたが、再開するにあたり多くの方に関わっていただき大変嬉しく思いますし、今回の交流事業に参加していただいた高校生の皆様や高校生のチャレンジを応援していただいた保護者の皆様、高等学校の先生方、アベリスツイス議会の皆様や両町の友好協会の皆様、訪問に協力していただいた全ての皆様に感謝申し上げます。

今回の派遣事業に参加された高校生のみなさんには、両町交流のきっかけを築いていただいた・故フランク・エバンスさんの「平和への想い」を心に留め、両町の友好の架け橋を担う者として交流事業に関心を持ち続けていただき、いつの日にか再びアベリスツイスを訪れ、今回の訪問で築いたホストファミリーを始めとした現地の方々との絆をより深めていただきたいと願っています。

総務課 主任 井戸本 あゆみ

私は、2019年度から2022年度の4年間、当時の国際交流事業担当課であった観光交流課で本事業を担当していました。新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、長い間対面交流は控えざるを得ず、今回、満を持して与謝野町の高校生たちがアベリスツイスを再び訪問できたこと、また、その一員として、初めてアベリスツイスの地を訪問できたことをとても嬉しく思います。

アベリスツイス滞在中は、現地友好協会のマイル会長をはじめ、本当に多くの方々から大きな歓迎とあたたかいおもてなしをいただきました。これには、この関係を築くためにこれまで両町の関係者がいかに尽力され、繋いでこられたかという、旧加悦町時代を含めた与謝野町とアベリスツイスの長い友好交流の歴史をひしひしと感じました。故フランク・エバンスさん、両町の関係者の皆様への感謝と敬意を改めて感じるとともに、今度はそれを自分たちが引き継いでいくことの大きな責任も感じています。

高校生の皆さんには、引き続きホストファミリーとの交流を続けていってほしいと思いますし、両町の友好交流が末永く続くよう、どのような形であっても関わり続けていただきたいと願っています。

2023アベリスツイス高校生派遣事業報告書
令和6年3月発行

編集発行 京都府与謝郡与謝野町字岩滝1798番地1
与謝野町企画財政課
電話：0772-43-9015

(表紙：フランク・エバンス氏のお墓にて)